

令和 6 年 度

事 業 報 告 書

令和 6 年 4 月 1 日から
令和 7 年 3 月 3 1 日まで

公益財団法人日本習字教育財団

目 次

(令和6年度事業報告)

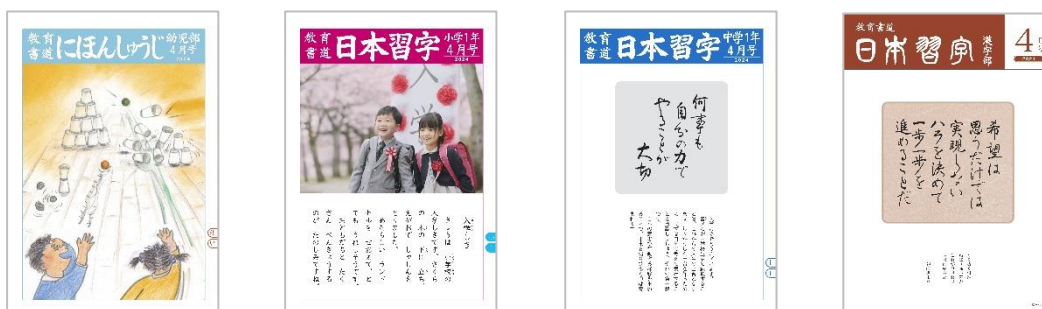
一. 書道の通信教育及び実習指導	1
1. 通信教育	1
2. 実習指導	3
3. 教室開設促進	4
4. 教室への新入会者並びに教室の学習活動支援	4
5. 書道用具の頒布	5
6. W e bサイトの運用	6
7. 習字の日	6
8. 展覧会の後援及び書道展の支援	7
9. 文化講演会の開催	7
二. 書道に関する展覧会の開催	7
1. 書道展の開催	7
2. 席書大会の開催	9
三. 書道に関する機関誌その他の出版物の発行	11
四. 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開	11
1. 書道文化に関する調査研究	11
2. 文字資料その他文化資料の展示公開	12
3. 教育・文化施設の運営	13
五. 書道に関する教育・研究機関への助成	14
六. その他本法人の目的を達成するために必要な事業	14

一．書道の通信教育及び実習指導

1．通信教育

(1) 教材

各コースそれぞれ手本（教材）及び教師用指導書「教師月報」を配付した。通信教育会員向け機関紙「日本習字だより」と「たのしい習字」を毎月発行した。臨書部は学習しやすい内容にすることを旨として、学習システムと手本の改訂に着手した。



(2) 学習方法

受講申し込みの後、教材配本→学習後、課題提出→認定・添削、質問への回答→返送を1か月の学習サイクルとして行った。日本習字臨書部の添削については希望者のみ行った。また書写技能基礎講座、書道臨書講座については最終課題提出時に修了試験を行った。



(3) コース

No.	通信教育の名称	期 間
1	日本習字幼児部	1 2 か月
2	日本習字小学1年	1 2 か月
3	日本習字小学2年	1 2 か月
4	日本習字小学3年	1 2 か月
5	日本習字小学4年	1 2 か月
6	日本習字小学5年	1 2 か月
7	日本習字小学6年	1 2 か月
8	日本習字中学1年	1 2 か月
9	日本習字中学2・3年	1 2 か月

1 0	日本習字漢字部	1 2 か月
1 1	日本習字かな部	1 2 か月
1 2	日本習字ペン部	1 2 か月
1 3	実用書道くらしの書	1 2 か月
1 4	日本習字臨書部	1 2 か月
1 5	書写技能基礎講座〔楷書編〕(文部科学省認定)	6 か月
1 6	書写技能基礎講座〔行書編〕(文部科学省認定)	6 か月
1 7	書道臨書講座【楷書Ⅰ】(文部科学省認定)	5 か月
1 8	書道臨書講座【楷書Ⅱ】(文部科学省認定)	4 ～ 1 2 か月
1 9	書道臨書講座【隸書】	3 ～ 6 か月

(4) 日本習字模範揮毫DVD (P1 No.1～11、12 か月)、日本習字臨書部模範揮毫DVD (付録：解説付拡大手本・条幅、12 か月) を頒布した。「日本習字漢字部 条幅課題拡大手本 3 0」、「日本習字漢字部 条幅課題拡大手本 3 1」を頒布した。

(5) 新入会者を対象とした教材「入門編(生徒手本課題集)」「入門編(成人手本課題集)」を新入会の希望者に配布。認定添削を行った。

(6) 資格認定

ア. 段級位の認定

(ア) 会員の課題出品に対して各コースそれぞれの基準に従って審査し、段級位を認定した。

(イ) 漢字部昇段試験を実施した。

受験有資格者に対し、昇段試験を実施した。(7 月)

(ウ) 臨書部昇段試験を実施した。

初段～五段(5 月・9 月・令和 7 年 1 月)

六段位(7 月)

七段位(7 月)

(エ) 生徒部八段位昇段試験を実施した。

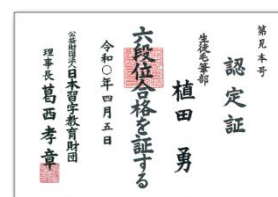
イ. 「くらしの書」実力の認定

希望者に対し、実力認定試験を実施した。(4 月)

(7) 認定証の発行

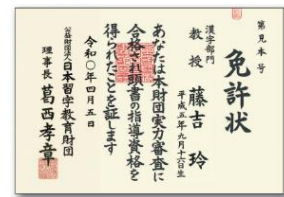
ア. 所定の段級位合格者に対し、本人の申請により段級位認定証を発行した。

イ. 「くらしの書」実力認定試験の合格者に対し、本人の申請により認定証を発行した。



(8) 免許状の発行

免許状取得資格者に対し、本人の申請により
免許状を発行した。



(9) 合格之証の発行

ア．漢字部六段位、七段位、八段位の合格者に対し、本人の申請により合格
之証を発行した。

イ．臨書部六段位、七段位の合格者に対し、本人の申請により合格之証を発
行した。

(10) 雅号之証の発行

雅号を希望する者に対し、雅号之証を発行した。

(11) 表彰

通信教育受講者の中から、特に成績が優秀な者を第75回文部科学省認定社
会通信教育修了者表彰に推薦し表彰された（主催：文部科学省、一般財団法人
人社会通信教育協会）。

書写技能基礎講座〔楷書編〕課程 1人

2. 実習指導



本法人の研修施設及び全国各地域及びオンラインで実習指導を行った。

講座名は次のとおり。

- (1) 東京研修所 漢字部コース（基本・応用）、条幅コース（基本・応用）、臨
書部コース（基本・応用）、かな部基本、先生のためのお手
本レッスン、書写と書道を学ぶ講座等を開催。
- (2) 福岡研修所 漢字部コース（基本・応用）、条幅コース（基本・応用）、か
な部（基本・応用）、古典を愉しむ講座、先生のためのお手
本レッスン、書写と書道を学ぶ講座等を開催。
- (3) 沖縄研修所 漢字部講座、漢字部研究講座、条幅講座、かな講座に短期講
座として、はじめての臨書、暮らしに活かす手書きの書等を
開催。
- (4) 各地講習会 全国各地にて実習指導（漢字部昇段試験対策講座、古典を愉

しむ、検定の先生に学ぶ講座、追加講座としてテレビドラマとの連動企画「かなを愉しむ」講座、習字教室開設研修会、新指導者懇談会）を開催。

また、公益財団法人京都市国際交流協会との共催事業として、京都市近郊在住の留学生を対象に書道体験ワークショップを開催した（10月19日・京都市国際交流会館）。



3. 教室開設促進

習字教室開設に関する「教室開設説明会」及び、教室開設の指導者のために必要な知識や生徒の指導法等を実践的に学べる「教室開設研修会」を開催した。また、教室開設研修会を短期間で受講できる「1か月で学べる 習字教室の始め方」を新たに開催し、教室開設研修会への参加を促すためにWeb広告も配信した。

4. 教室への新入会者並びに教室の学習活動支援

書道学習の機会拡大や継続学習の応援を目的に普及企画を実施した。

(1) 「日本習字 教室入会キャンペーン」

各教室での新入会者の獲得を促進するため、生徒募集に役立つツールの提供やすべての入会者に習字用具を進呈するキャンペーンを実施した。（令和6年1月～9月、参加申込制）。

(2) 教室向け幼児教材の普及促進

教室で楽しく指導できる幼児向け教材「はじめて Labo」「えんぴつクラブ」の普及を促進し、教室での幼児の受け入れ体制を強化した。

(3) 「中学部受講促進」

小学6年生を対象として、中学部課題の先行学習機会の提供や中学部継続受講特典の付与等により、中学部への継続的な受講を促す取り組みを行った。



(4) 「教室作品展」開催推進

教室活動の活性化と成果発表の機会を提供することを目的として、教室作品展の開催を推進。会員が作品発表を行い、一般の方々に向けて習字教室の活動を広く周知した。

(5) 教室イベントの実施

会員の継続学習を後押しする教室イベント「干支カレンダー作り」の開催を促進するとともに、会員の友人の参加を通じて新規入会につながる機会を提供した。



5. 書道用具の頒布

会員に対し、書道の技能向上を図る上で最適な書道用具等を選定・推奨し頒布した。書道用具等は「選定品」「推奨品」「頒布会品」に区分しそれぞれ目的に応じて提供した。



(1) 選定品の頒布

書道技能向上を目的とした通信教育各コースの学習において、課題の履修のために欠くことのできない書道用具（筆・紙・墨・硯等）及び硬筆用具（鉛筆・ペン・用紙等）を頒布した。

(2) 推奨品の頒布

選定品以外に会員からの斡旋要望または書道作品制作及び書道学習の履修に必要となる用具を頒布した。

(3) 頒布会品の頒布

特別頒布会を実施し、競書大会・教室イベント・教室での作品展向けの書道用具・展示用具などの頒布会品を期間限定で斡旋した。春の特別頒布会では教室支援品、文房具等の頒布を行った。またオンラインショップ限定の頒布を年3回実施した。

ア. 「たなばた特別頒布会」 5月～7月

※観梅展向け用具特別頒布会は9月まで

イ. 「かきぞめ特別頒布会」 10月～12月

ウ.「春の特別頒布会」 令和7年2月～3月

6. Webサイトの運用

(1) 日本習字公式Webサイト

日本習字の紹介や全国の習字教室検索・受講申し込み・問い合わせ受け付け、展覧会やイベントの告知ほか、SNSや日本習字公式動画チャンネルを活用して情報発信を行った。また、Web広告の配信から教室検索への利用を促進した。



【Web広告(動画)】

(2) 日本習字会員向けサイト

指導者の利便性の向上及び円滑な教室運営をサポートすることを目的として、専用サイトを運営した。また、サイト上から各種申し込みや申請・継続手続き等を可能にするため、会員向けサイトとオンラインショップのリニューアルに着手し、利便性の向上に取り組んだ。



7. 習字の日

日本習字制定の記念日「習字の日(11月2日 いい(11)もじ(2)の語呂合わせ)」に関連して、「手書きの文字」のよさや重要性を伝え、その文化を伝えるべく下記の企画を実施した。

(1) 「手紙をかこう」ツールの配付

手紙やはがきで思いを伝えるツールを習字教室や体験イベントなどで配布して広く活用を促した。

(2) 書道イベントへの協賛

書道の未来を担う若者を応援するため、全国高等学校書道パフォー



【手紙をかこうツール】

マンス選手権大会（愛媛県四国中央市で開催）に協賛した（7月28日）。



【全国高校書道パフォーマンス選手権（第17回大会）】

8. 展覧会の後援及び書道展の支援

福岡矯正管区文芸作品コンクールをはじめ各種団体等が実施する書道展覧会等に対し、後援・審査等の支援をした。地域における教室の活性化、指導者同士のつながりを目的に合同で開催する作品展を後押ししたこともあり、後援件数は増加した。



9. 文化講演会の開催

「特別公開講座」を11月3日、東京研修所で開催した。講師は神奈川県立保健福祉大学の笹田哲氏で、テーマは『気になるこどものできた！が増える』～発達障害のある子どもの書字指導のコツ～。



二. 書道に関する展覧会の開催

1. 書道展の開催

（1）第13回観梅展（日本習字 条幅作品展）の開催

成人会員・高校生及び特待生会員を対象に自己研鑽の発表の場として作品を募集。地区展覧会にて優秀作品の展示発表を行い、表彰式を実施した。今回より新世代の参加促進を目的に清風賞をさらに拡大し、3賞を新設した。

ア. 募集方法 指導者・会員に募集要項を配付し、機関紙「日本習字だより」と公式Webサイトに開催告知を掲載した。

また、SNSで配信し応募者を募った。

イ. 募集期間 8月1日～9月17日



【募集ポスター】

- ウ. 応募総数 3, 0 7 3 点
 エ. 審査 観梅展審査委員会
 オ. 審査結果 観梅大賞 2 5 点、U-18 清風大賞（高校生・特待生）4 点他各賞
 カ. 作品発表

（ア）入賞作品を対象に、地区展覧会を5会場で開催した。（いずれも令和7年）、また、会場では観梅展作品解説を行った。

開催日	展名	会 場
2 月 9 日	京都展	京都市勧業館（京都市）
2 月 2 3 日	福岡展	福岡ファッションビル FFB ホール（福岡市）
3 月 2 3 日	東京展	国際ファッションセンター KFC Hall（墨田区）
3 月 2 日	札幌展	札幌市民ギャラリー（札幌市）
3 月 3 0 日	沖縄展	沖縄書道会館（沖縄市）



【東京展】



【京都展】



【福岡展】



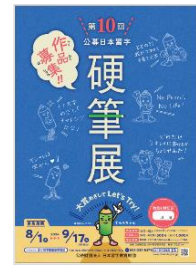
【沖縄展】

（イ）観梅大賞・U-18 清風大賞作品、受賞者名を機関紙「日本習字だより」及び公式Webサイトに掲載発表した。

（2）第10回公募日本習字硬筆展の開催

日常生活に密着した硬筆学習への興味や意欲を喚起することを目的に広く一般から作品を公募し、優秀作品をW e b展で発表した。

- ア．募集方法 書塾及び書道関係者に募集要項を配付し、開催告知を公式W e bサイト、機関紙、一般紙等に掲載した。また、S N Sで発信し応募者を募った。



【募集ポスター】

- イ．募集期間 8月1日～9月17日
- ウ．後援 文化庁、全国都道府県教育長協議会、全国高等学校長協会、全日本中学校長会、全国連合小学校長会、京都府、福岡県、京都府教育委員会、福岡県教育委員会、京都市、福岡市、報道機関85社
- エ．応募総数 52,184点
- オ．審査 日本習字硬筆展審査委員会
- カ．審査結果 大賞12点他各賞
- キ．作品発表

(ア) 特別賞、入賞者(秀作賞以上)を対象にW e b展を開催(期間：令和7年1月～令和8年1月)



(イ) 大賞を機関紙「日本習字だより」「たのしい習字」、公式W e bサイトに掲載発表した。

(ウ) 大賞を含む特別賞受賞作品・受賞者氏名を印刷物として作成し応募者(団体)に配付した。

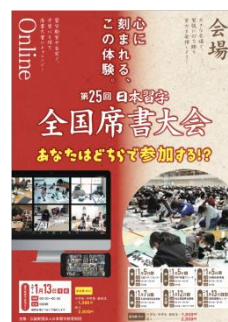
2. 席書大会の開催

(1) 第25回日本習字全国席書大会の開催

小学生以上の会員を対象に参加者を募集し、全国6会場で実施した。制限時間20分のもと、学年ごとに決められた課題を手本なしで書き上げ、一斉に披露した。福岡会場ではオンライン(ビデオ会議システム活用)との併催とし、後日、その模様をW e b上で動画配信した。

また、各会場では第25回を記念し、職員による揮毫を行い、福岡会場は福岡県立山門高等学校書道部を招いて書道パフォーマンスを披露した。

ア. 募集方法 指導者・会員に募集要項などを配付し、機関紙「日本習字だより」「たのしい習字」に開催告知を掲載した。またSNSで配信し参加者を募った。



【募集ポスター】

イ. 後援 北海道教育委員会、愛知県教育委員会、兵庫県教育委員会、福岡県教育委員会、沖縄県教育委員会、報道機関17社

ウ. 開催実績（いずれも令和7年）

	大会名	会場（開催地）
1月7日	札幌大会	札幌市厚別区体育館（札幌市）
1月5日	東京大会	大森スポーツセンター（大田区）
1月12日	名古屋大会	名古屋国際会議場（名古屋市）
1月5日	神戸大会	神戸常盤アリーナ（神戸市）
1月13日	福岡大会 オンライン	福岡国際センター（福岡市） 自宅や習字教室など
1月5日	沖縄大会	沖縄市体育館（沖縄市）



【東京大会】



【福岡大会】



【オンライン開催】

エ. 審査 日本習字全国席書大会審査委員会

オ. 審査結果 大賞9点他各賞

カ. 作品発表

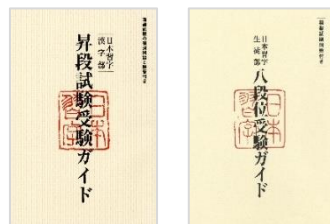
席書大賞・席書準大賞・審査委員会奨励賞受賞作品を機関紙「日本習字だより」「たのしい習字」、当財団Webサイトで掲載発表した。

席書大賞・席書準大賞作品は第13回観梅展地区展覧会にて展示した。

三. 書道に関する機関誌その他の出版物の発行

補助教材として出版物を発行した。主な出版物は次のとおり。

- (1) 漢字部昇段試験受験用教材として「日本習字漢字部 昇段試験受験ガイド」、生徒部八段位昇段試験用教材として「日本習字生徒部八段位受験ガイド」を発行した。
- (2) 幼児・児童向け教材として「はじめてのひらがな（入門編）」、「だいすき！ひらがな（練習編）」、「ひらがな練習帳 1（五十音）」、「ひらがな練習帳 2（ことば）」、「カタカナ練習帳」を発行した。
- (3) 漢字学習教材として日本習字漢字練習帳「1年生のかん字」を発行した。（その他 2 年生～6 年生まで）。



- (4) 幼児の手本受講までの導入教材として、幼児向けの学習教材「はじめ“て”Labo」と年長児向け学習教材「えんぴつクラブ」を発行した。同教材の習字教室での活用を促進するため、指導者限定のお試しセットを頒布した。



四. 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開

1. 書道文化に関する調査研究

博物館観峰館の収蔵資料の中から中国書画をはじめ、日本の教科書など筆墨文化に関する資料を分類整理し調査研究を行った。

- (1) 関西中国書画コレクション研究会への参加

近代中国書画に関して他の博物館及び大学等研究機関との連携による共同研究に参加した。加盟館 9 館：京都国立博物館ほか。

- (2) 国立歴史民俗博物館共同研究への参加

「秦漢時代の文字使用をめぐる学際的研究」として、館蔵秦封泥資料を対象



とした共同研究に参加した。

(3) 収蔵資料のデータベース化

収蔵資料の内容・作者・法量・制作年などをデータベース化した。

(4) 『観峰館紀要』第19号を刊行し、研究者・関係機関等に進呈した。



2. 文字資料その他文化資料の展示公開

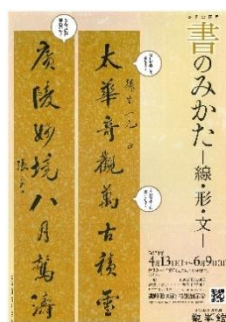
(1) 常設展示（主な展示資料）

- ア. 近代中国の書画、中国の文字資料、復元石碑
- イ. 「避暑山荘」・「三希堂」の復元資料
- ウ. 原田観峰先生書作品



(2) 企画展示を下記のとおり実施した。

	会 期	名 称
1	4月13日～6月 9日	春季企画展「書のみかた―線・形・文―」
2	6月29日～9月 1日	夏季企画展「夏休み子ども博物館」
3	9月21日～11月24日	特別企画展・琵琶湖文化館地域連携企画展「滋賀限定！近江ゆかりの書画～古写経から近代の書まで～」(公益財団法人住友財団助成事業)



(3) バーチャル観峰館の公開

常設展示・企画展示の内容を遠方からでも閲覧できる、バーチャルツアーサイトを作成し、Webサイト上で公開した。



【バーチャル観峰館】

(4) 館外展示

第13回観梅展作品展示・解説

日時：令和7年2月9日（京都）/2月23日（福岡）/3月23日（東京）

会場：観梅展地区展覧会会場

3. 教育・文化施設の運営

博物館観峰館の施設運営並びに館内で各種体験学習教室、各種イベントを開催した。

(1) 概要

ア. 開館日 4月13日～11月24日

イ. 休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

展示替え期間（6月10日～6月28日ほか）

資料調査・整理休館（11月25日～令和7年3月31日）

ウ. 開館日数 171日

エ. 入館料 一般1,000円、高校・大学生800円、小・中学生無料
特別企画展は各1,500円、1,000円、100円
（団体割引、その他各種入館割引を実施）

オ. 入館無料日 関西文化の日ほか、年間計6日

(2) 書道に関する体験学習教室の開催

瓦当拓本教室、石碑採拓教室などを適宜開催した。

(3) 各種イベントの開催

ア. ギャラリートーク&ミニセッション 1回

イ. アンティークオルゴール鑑賞会 2回

ウ. 「夏休み子ども博物館」クイズシート

エ. 「夏休み子ども博物館」ワークショップ

オ. 土曜講座 4回

カ. 第29回観峰館かきぞめ大会

(4) 博物館学芸員実習生の受け入れ

5名を対象に実施した（7月～8月）。

(5) 地域及び教育機関と連携した学習・研修機会の提供

東近江市博物館共同イベントワークショップ参加・

淡海書道文化専門学校石碑採拓実習指導

(6) 展示資料解説



【石碑採拓教室】



【観峰館かきぞめ大会】

各種団体・グループ来館者に対し館内案内・資料解説・特別閲覧を行った。

五. 書道に関する教育・研究機関への助成

なし

六. その他本法人の目的を達成するために必要な事業

なし